

北山杉の里にミニチュアホース牧場

22日オープン

障害者らも世話

社会復帰へ牧草づくり

日本で初めてのミニチュアホースの牧場が、みがき丸太で知られる北山杉の里、京都府北桑田郡京北町に二十二日、オープンする。近くの精神薄弱者更生施設「京北やまぐにの郷(きやまぐにのさと)」の仲間たちは牧場の人たちと一緒に牧草づくりやきゅう會の世話などをするにとり、「馬との交流が障害者の社会参加に役立てば…」と、開場の期待が集まっている。



オープンするミニチュアホース牧場＝京都府北桑田郡京北町社の「ウィナースサークルランチ日本」で

オープンするのは「ウィナーホースは、ポニーよりひと回り、飼われている。京都市内で印スサークルランチ日本」西村 小さい体長八六センチ以下という小 剛会社を経営する西村さんは二脩一さん六の経営。ミニチュア馬で、米園などではペットとし 年前に渡米したとき、ミニチュ

アホースが障害者やお年寄り、子供たちの中に溶け込んでいるのを見て感激。妻の久恵さん(五七)が左足に障害を持つこともあって、「日本でも」と、京北町社の所有地に牧場を計画、米園の「ウィナースサークルランチ」で飼育法などを教えてもらい、昨年九月、初めて六頭を輸入した。

牧場は約千平方メートルの牧草地のほか、約六百六十平方メートルの敷地にきゅう會や調教用のトラックを備える。ミニチュアホースも今では十四頭に。西村さんはここを国内での普及の拠点とし、一般に公開したりイベントなどに送り出したりするという。

歩いて十五分の「京北やまぐにの郷」との交流は昨年のクリスマスがきっかけ。「やまぐにの郷」は府内でも唯一、自閉症の人たちを中心とした施設。現

在、四十二人が社会復帰をめざし訓練に励んでいる。ミニチュアホースを連れての慰問を申し出た西村さんに、松上利男園長(五七)は「園生が労働によって社会性を身につけてくれたら」と作業奉仕を逆に提案した。

自閉症の人たちは人との交際が苦手なうえ、動物を避ける傾向がある、という。しかし、最初は馬にさほど関心を寄せなかった園生たちも、牧場で手伝ううち、違和感なく馬たちと過ごせるようになった。

今後、園生たちは交代で馬の世話や牧場の整備、牧草栽培に当たる。作業による収入は園生に支給される。松上園長は「馬の世話を通じ、重いハンディを持つ人も社会で立派に働けるんだということが分かってもらえれば」と語る。

牧場の連絡先は〇七七一五―三―〇三七六。